

中西美沙子 [教育コーディネーター]

大丈夫よ! お母さん!

～青い鳥～



『青い鳥』は、メーテルリンクの「幸福探し」の童話です。幼い姉弟は、逃げてしまった青い鳥を探しに旅に出ます。

「子育て」は、どこか「幸福探し」と似ています。でも、その幸福の考え方や感じ方に対して、「これでいい」という確信を持つことは難しいことですね。

「授かり者」。赤ちゃんを宿すことを、このような言葉で表現した時代がありました。愛する人との結びつきで、子どもは誕生します。が、二人の営みだけではない大きな存在によって、赤ちゃんはこの世にやってくるという思想が、「授かる」という言葉を生んだのでしょうか。その大きな存在は、「神」であったり「自然」であったりします。大切なのは、自分たちだけが作った命ではないという、その感覚です。現代は、そのような感覚がやや薄くなっているのかも知れません。

「穏やかな環境」が、子どもの成長には欠かせません。思想家の吉本隆明が、現代の子どもたちの不安に満ちた行動を分析しています。夫婦の諍(いさか)い。テレビや町の不協和な音の氾濫。欲望中心の生活。このような「悪しき環境」で育った子どもは、思春期に問題行動を起こすと彼は予言しているのです。

「穏やかな環境」を整えるのは、そ

んなに難しいことはありません。両親がなごやかに暮らす努力をするだけでいいのです。母親の不安を除くには、夫婦の生活の仕方が大きく関わって



中西美沙子プロフィール

教育コーディネーター。執筆・講演活動の傍ら、文章教室「スコーレ」・画廊「キューブ・ブルー」(浜松市中区元城町)を主宰。文章教室「スコーレ」では、小学生から大人まで幅広い層を対象に、ただ書き方を教えるのではなく、「この時代をどのように生きるか」を見つめさせるような試みをしています。お問い合わせは、TEL.053-456-3770

ホームページは



著書の「ピアニシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に連載した人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。(税込1,500円)

＝お求めは浜松市内の谷島屋で＝

きます。そんな時に「授かり者」としての赤ちゃんという思いがあると、穏やかな生活ができるでしょう。そうすれば、ごく自然に、子ども中心の家庭が生まれることでしょう。

近頃、若い母親に連れられた乳幼児を、ゲームセンターや深夜の居酒屋などでも見かけるとか。心配になります。子どもは、お母さんの声が聞こえる静かな環境で、ゆったりと時を過ごしたいのです。眠ったり、時々、目を覚ましたりしながら。

子育ては確かに大変ですが、喜びでもあります。「泣いたり、笑ったり、くしゃみをしたり」。無邪気な表情に接しているだけで、ともに生きている実感がわきますね。その実感を体験できるだけでも、人は生きるに値します。

「青い鳥症候群」なる言葉が、かつてありました。どこかに幸せがあるのではと、探し続ける心を言うのです。「足ること」を知るよりも、「無いこと」を必要以上に感じる人は、どの時代にもいます。

青い鳥を探しに行ったチルチルとミチルは、疲れて家に帰ります。そして自分たちの家にその鳥がいることを知るので。初めから、青い鳥はそこにいたのでしょうね、きっと。気付かなかっただけで。長い旅を経て、幼い姉弟は青い鳥、つまり幸福を見つける力を得ます。

子育ても、幸福探しの一つかも知れませんが、でもその幸福は、外にあるのではない。心を落ち着かせ、思いやりのある夫婦が育てる子どもこそ、「青い鳥」です。それは、誰のものでもない、「授かり者」としての子どもたちなのです。